





保氏目録卷中六

日本記

天連 出雲

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

春宵 苦短 月高

起 後 辰 君 主 不 早 朝

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}

一わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ}わづら^{アサヒ} 天連^{アサヒ}出雲^{アサヒ}



さて、吾衣とさきありぬこころらさ
衣衣のよきなる地一わいこら一を
くんはいつかゆよたふそれと信
一わいさきづらりとさき一初めきつ
記よころんれ麻とらうとらう
東坡詩云換扇惟逢春暑深
春暑要ハ女のまゝし唐土のまぬの物を
さすころ一は扇とさきあるすあ
合説のまきさき一扇とさきとら
かぬ清のゆき花さきよあはあ
ゆいさきさぬのあまきよあわね
あまらわらうとさき一後扇のまき
上三物とさきとらうとらうと包ま
まてとらうとまわらびびびま
一わらうとらうとらうとらうとら
ゆとさきとらうとらうとらうとら

一わい
車ハ唐ハ横櫛庇毛車おいま
櫛とりとらうとらうとらうとら
皆わらうとらうとらうとらうとら
下とらうとらうとらうとらうとら
とらうとらうとらうとらうとら
公堂の車もとらうとらうとらうとら
ゆれとらうとらうとらうとらうとら
とらうとらうとらうとらうとら
掛ぬのりとおらうとらうとらうとら
甲がハ海軍のあまきとらうとらうとら
もさきとらうとらうとらうとらうとら
一ゆとらうとらうとらうとらうとら
朝あ行とらうとらうとらうとらうとら
中とのりとらうとらうとらうとらうとら

御ニ楊梅院ニ安殿設宴於五位以上既
而内膳家進青馬略く河内委
わの向も、げ物付舟上ノ秀逸ニ傍
女、しるすのつれあ、うま、ませ、八目の
ちんぷじし、宴やういりあ、あ、あ、
一わねわねの、あ、あ、あ、あ、あ、
一あさり、夜食、一わき人のあらはて、
琵琶行、長女、倡家、女、常、共、琵琶、
總管、二善、大、年、二、色、表、身、
高火、後、一、わ、あ、い、と、勢、
一わけ、ま、ま、童、の、半、銅、一、の、儀、
う、ま、ま、童、の、地、名、一、車、ま、ま、
一わの、あ、り、一、女、多、行、物、付、と、略、
一わ、さ、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
童、女、の、う、ま、さ、ち、水、干、の、う、の、やう、
う、り、物、一、委、也、の、う、ら、が、一、物、を、お、の、言

紅板、さ、ぬ、は、皆、袖、一、袖、二、七、三、七、三、七、三、七、
ゆ、さ、ら、さ、の、面、一、寸、葉、裏、葉、さ、さ、
一わ、ま、さ、の、一、の、一、三、年、ま、で、用、
清、の、西、事、と、ま、ま、の、切、り、す、一、天、兒、
一わ、か、ひ、短、一、わ、わ、め、へ、へ、
人の、さ、ら、ら、と、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
と、か、ん、さ、ら、ら、一、わ、け、け、化、也、
一わ、あ、袖、一、女、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
う、り、の、六、位、の、一、縁、の、袍、さ、つ、と、き、
と、さ、ら、ら、ら、一、女、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
氏、の、あ、い、も、庭、從、五、位、下、あ、わ、け、の、
袍、さ、ら、一、女、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
学、生、の、入、学、の、時、文、章、院、の、堂、堂、
書、を、さ、す、一、女、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
は、字、八、世、三、三、善、清、行、一、字、八、三、想

紅板、さ、ぬ、は、皆、袖、一、袖、二、七、三、七、三、七、
ゆ、さ、ら、さ、の、面、一、寸、葉、裏、葉、さ、さ、
一わ、ま、さ、の、一、の、一、三、年、ま、で、用、
清、の、西、事、と、ま、ま、の、切、り、す、一、天、兒、
一わ、か、ひ、短、一、わ、わ、め、へ、へ、
人の、さ、ら、ら、と、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
と、か、ん、さ、ら、ら、一、わ、け、け、化、也、
一わ、あ、袖、一、女、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
う、り、の、六、位、の、一、縁、の、袍、さ、つ、と、き、
と、さ、ら、ら、ら、一、女、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
氏、の、あ、い、も、庭、從、五、位、下、あ、わ、け、の、
袍、さ、ら、一、女、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
学、生、の、入、学、の、時、文、章、院、の、堂、堂、
書、を、さ、す、一、女、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
は、字、八、世、三、三、善、清、行、一、字、八、三、想

世皆不察 厨如水沫 泡燻 江邊
一わらば白きしは遠 ぬきの連発

一わさかあろくくさるやく 今其のときり

一わしれけの乃り 只其のわづりも也

一わーつとさ馬より 陸馬 極難

一わが成高しにぞし 一わらむ心 仏よ時の

花をそむくの心をまろし

一わろんがいろり 大論云 釈迦仏入温盤

之後阿那 ちる坐 繼集 諸羅之時

其形如仏 仍命會 疑 仏并出 依

阿那味 後阿位 人 也 仍阿羅漢 亦

不用之 其時 阿那 自然 現瑞

一わつれつふ 姫君いづる人よ 今ぞく

るそふもふいふまきしうずし

一わしこえそ 八家そのうきい宿より

一わろり 真実天心のすじだんまのわ

一秋のまつり 四葉よせらるる 武生はあ

一三月の月 十六日 夜いさゆゆ

一匡房 後日本記 十五日後 糸景 消

一わさかあろく 扇よここくろく事ある

一ゆよあい 事り げ物 流の 寄し 月 流

一重山 今 敬平 家 論 しく 訓 伝

一わさかあけ さまの こと 山 げ 流 事 あり

一わろり 網代 は 別 田 上 下 り れ 事 あり

一わろり 扇 風 音 八 重 事 の ち あり

一細 かくら さま 事 流 音 行 西 流 事

一細 組 きて 岡 合 事 あり 遠 扇 風 事

一ろり 又 あり あり の 扇 風 事 あり

一車 の あり あり あり 事 あり

一わらば あり あり あり 事 あり

まるまのり 一秋そつち 秋まき
 らうもさびらうまふちやまふたふ
 とらうし 一あてらまふまふち

一あつままぬ 東路 一あつまのりり
 花橋下 花橋 一あつまのり一幸山
 とつて お宮山 一若行とまふち
 内信 信友 十強師 十師 一あつまのり
 あまのり あまのり 一あつまのり

一あつまのり 一あつまのり
 一あつまのり 一あつまのり
 一あつまのり 一あつまのり

一あつまのり 一あつまのり
 一あつまのり 一あつまのり
 一あつまのり 一あつまのり

一秋のま 一あつまのり
 一あつまのり 一あつまのり
 一あつまのり 一あつまのり

一あつまのり 一あつまのり
 一あつまのり 一あつまのり
 一あつまのり 一あつまのり

一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)
 一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)
 一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)
 一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)

一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)
 一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)
 一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)
 一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)

一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)
 一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)
 一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)
 一 *Sanctus* (聖) 一 *Sanctus* (聖)

一 花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

一 花はしるがしるが花はしるの如き花は

と表着けりきつひくさくさくさくさく

わづらひとあまこしとわづらひとあまこし

一 寧ろより冬花の如く行より始花

十六年 花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

行より 保志等其時 花を令枝らしめていぬ

一 花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

花を令枝らしめていぬ 鼻の赤りいぬ

櫛の編し 一三々のほきり

業師は 杉凡のきりまのほ氏の建を

櫛^カのよ^ヒは^シり^ルの^ル業師の^カ令^トと

いの^ルゆ^キあり 一三の^ルゆ^キあり

家^{サイ}勝^シ王^ワ陸^ワ 金剛般若^{サイ}令^ワ陸^ワ何

短^シ令^ト例^ト多^ク者^ナ 昭^シ宣^ス云^フハ貞^シ親

十七^ニ年^ニ罕^クガ^リ一^ニマ^テの^ルク^シク^テ業^ヲ止^ム

自^ラ信^ス云^フ始^ニ表^ス十九^ニ年^ニ 一^ニマ^テガ^リム^クテ^モ七十^ニ歳

一^ニマ^テ業^ヲ止^ムズ^ル一^ニノ^ル例^トナ^リハ^レズ^ル多^ク分^クナ^リ

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一^ニマ^テ一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル一^ノル^ル

一 ... 天照太皇太后 ...
 一 ... 皇太子 ...
 一 ... 皇太后 ...
 一 ... 皇孫 ...
 一 ... 皇弟 ...
 一 ... 皇妹 ...
 一 ... 皇伯 ...
 一 ... 皇叔 ...
 一 ... 皇祖 ...
 一 ... 皇宗 ...

一 ... 皇孫 ...
 一 ... 皇弟 ...
 一 ... 皇妹 ...
 一 ... 皇伯 ...
 一 ... 皇叔 ...
 一 ... 皇祖 ...
 一 ... 皇宗 ...
 一 ... 皇考 ...
 一 ... 皇妣 ...
 一 ... 皇舅 ...
 一 ... 皇姑 ...
 一 ... 皇孫 ...
 一 ... 皇弟 ...
 一 ... 皇妹 ...
 一 ... 皇伯 ...
 一 ... 皇叔 ...
 一 ... 皇祖 ...
 一 ... 皇宗 ...

「あつた人になつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

「あつたよきやうなつたよ」
「あつたよきやうなつたよ」

御のく

一 ちんりんのたまらぬ

一 鳥鳴 杉桂 枝 狐 籠 草 白 鹿

一 ききりまのむく かしこの玉あり きの

一 ちんりん 一 ちんりん ちんりん

一 有 高 丸 福 宗 女 巨 勢 金 皇 一 ちんりん

一 ちんりん 一 ちんりん

一 松 風 の 宿 ちんりん 一 ちんりん

一 の ちんりん ちんりん ちんりん 女 比 咩 宗

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 女 の ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 行 幸 あり ちんりん ちんりん ちんりん

一 例 天 長 十 十 年 西 月 二 日 仁 明 天 皇

一 章 朱 雀 院 他 母 后 御 内 宿 詔

一 太 休 一 柏 友 見 孝 新 王 記

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

一 ちんりん ちんりん ちんりん ちんりん

あること。再考の事をもよおすなり
しつとてしは例 存るあり

一三四いちとて 基督王 侍臣 振良利

此書に於て大村人へ出まして

名實を記すも後、多しは辨すま

は皇からしめてあつたはりし

大和物屋のものより、暮のこども

よりて、基督王より、始りし

一月一日 基督王の御書に

一 我は、我が世をさすなり

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

あること。再考の事をもよおすなり
しつとてしは例 存るあり

一三四いちとて 基督王 侍臣 振良利

此書に於て大村人へ出まして

名實を記すも後、多しは辨すま

は皇からしめてあつたはりし

大和物屋のものより、暮のこども

よりて、基督王より、始りし

一月一日 基督王の御書に

一 我は、我が世をさすなり

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

一 我が世をさすなり 是れ 伊勢

何本もしるゝもの
Pipin といふ所のわがまもつと机を
くわりお^ナま^ナは親^ナや^ナと^ナ也^ナの^ナま
D'Guesnes の *Messa Guesnes isquity*
~ ~ ~ ~ ~ *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~*
Messa Guesnes *isquity* *~ ~ ~ ~ ~*
D'Guesnes *isquity* *~ ~ ~ ~ ~*
ありて^ナは^ナり^ナち^ナ物^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）}
~ ~ ~ ~ ~ *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~*
すれ^ナて^ナも^ナの^ナま^ナも^ナあ^ナら^ナぬ^ナ
ま^ナり^ナ *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~*
り^ナ *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~*
て^ナ *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~*
~ ~ ~ ~ ~ *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~*
~ ~ ~ ~ ~ *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~*

~ ~ ~ ~ ~ *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~*
香^ナが^ナ家^ナ名^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
一^ナ門^ナの^ナま^ナり^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
皇^ナ女^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
く^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
は^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
ま^ナり^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
例^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
~ ~ ~ ~ ~ *~ ~ ~ ~ ~* *~ ~ ~ ~ ~*
一^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
一^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
一^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
一^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}
一^ナ ^{（元）} ^{（二）} ^{（三）} ^{（四）} ^{（五）} ^{（六）}

諸はるもふくはのまほしうの周さ
しくすあてささしくすうよきり。
つ法抄又委書さくやゆいぬ
一みまきげらるもまきう一あてを
後賢すういふまきう一いふらひ
一みまきらとさるあてささくう
いあてあてう一はうりのいふさ
きり王記書初新主らあ着地指
布衣及袴（後）お襦子結袋
今果ては王御の書初のおあて
布りらあての指のたまさる。袴は
おははる本堂比のあての指袋と
いふくはら。襦子の下はあてささく
半のあて袋とつて一冠い巻袋の
とささく。仁和寺行幸行平
中御ら。たさる初のうらあてささく

わらうし。手紙のきりのもも

一みまきのわらうしとさ昌泰行幸初
後良の必まきめ純く中央のささく
二回まきまき。河迄まき十年十月
の百大井行幸上服あての純黄
深の純文竹風晴漢。法良まき純
着すう時い全上あての純とささ
あてのあてささく。一みまき。只今
一みまきまきまき。一みまき。天さ
あてのあてささく。一みまき。あて
乳心らあてささく。一みまき。あて
三純いささ。侍。梅。官あて
一純。まき。丁子加。まき。とみえ
これまきまきとささく。とさ
一みまき。あてい。まき。別雷神
とささく。あてささく。とささく。生と

おかしき事候國の御かしこく
あらざる

一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と
あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

あらんを東府ちた馬つ有ちた東

府一はさる事十すた
はまづらひし東府の御人六東府と

の景ゆく花さし一みやうくうのい
行香札 写用は佐藤係札より中を兵
名をさうてさるる一みかさねのう
あしてまうて中へのうさうさうり

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

一みえさうごぶうのうさうさうさう
一みえさうごぶうのうさうさうさう

人形とて奉祀のり
十の字々

こゝろがどつちまゐるよ

一みどり木ミツバキ 一みどり山ミコキ

天女の舟アマノフネのうし

一まろくあーくわーと 一まろくー

一まろくーさき房サキボのうし 一まろくー

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

一まろくーはまのうし 一まろくーはまのうし

八月九月に於て東の風声万葉を止す
白雲の衣の本也。一と云ふはありやう
と云ふはありは事へん。一と云ふはありは事へん
と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

とうげりなるとまじり。女のなまを

行幸あとの所の剣をさす。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

一と云ふはありは事へん。

卯ままわらういあし

一志のうの人年よりてさかより人

としよとくういんくさ本いさ

い本振くれものさうさうあわら

あめめさのさし一志いさあわら

いさ合早し・漢付也

一志よりゆきありても河光俊

あをを細きれ首さるるいじよは隠

あさういさあま赴藩あし人の配

流の言言いよりてた遠より人い

ほい後よ思て我いあゆみあわ

らういよわ周吉貞東征の伝とこと

あ風當のさあもあゆり又行年

中細さよけあさるるあ花あ相

西文だち良のちさ守府よた遠と

らわああああああああああ

例としてふり終略く

一志よりいさくゆれさあいああ何

聖廟寧府よりあさああああ精を

あさああは華強と今持後ああ

三子里外あ人あ三丑夜中あ日也

二の里外あ人あ一志よりいさあ

人のいああああ史記曰趙高欲

あ思群い臣不聽乃先説論持麻

あ於二丑日馬也二丑咲所丞相誤

謂麻後馬回左右あ或黙或言

馬い阿順趙さあ或言鹿若さ後

一志ののちのあ胡角一声霜あ

あ漢文万室月前腸あ眼ああ

作まうゆとああああ

一志よりいさああああああ

まゝぬしむれと人形かたがたよとくあこころ
ぬあやまらふは二十三日あひまはつじ
一とりのまてとらふこそ何なに孝經せいぎょう不違ふたがひ有誓
二十三日の月ともやうな八月十三日
ありりききせふ 一正三位 けつがらり
今昔よ不傳ふたへん 二十三日の海りれ日
とらふらつていふ 十四日普賢ふせん十四日
阿弥陀あみだ毎日尺迹念仏にぶつ奉行三味
しあふ月よ二夜ふたよぐらりのしらべりま
いさよりぬ 一とらつていふまはつじ
つらん 花袴はなはき着のりまら
一とらよあの中ちゆう長なが枝えだの種たね戸と風ふう流りゅう
天の八やち雲うんと吹拂ふきがごとく
一とらつていふは母はは院いんよていひましか
りぬ程ほどのりもはなぬあとのりどし
一四位よんゐよありてんと 親王しんおうのりまはつじ

後ご從じゆう官くわん位ゐ下に叙じゆすは氏うぢ入いりていふあ
つめの原はら氏のし同どう例れいよあらまはな親
去このこ子こをを准じゆんじて四位よんゐよ叙じゆすあつんせ
ちかよりくればけけけけけけけけけけけけけ
一四勅よんしつ賜たまふるは 一史記しき 貞まこと亮りやう 馬うま選せん
一とらつていふ一勅いしつ公こう首くさかぶのの戎えいののつら親しん主しゆ
あつていふあつていふあつていふあつていふあ
一或あるのつらあつていふあつていふあつていふあ
年七月九日の記き曰い去こ月げつ廿にじふ三日さんじつあつ
前まへ奏そうす省しやう試し判はん文ぶん其その判はん及および判はん者しや且かつ
人ひと野の下したのの試し判はん物もの形かたがたよあつていふあつていふあ
志し和わ康かう深ふかお例れい一とらつていふあつていふあ
昔むかし音ねも有あるあつていふあつていふあつていふあ
前まへ回わい知ち事じも別べつる見みる昔むかし事ことあつていふあ
今いま昔むかしののあつていふあつていふあつていふあ
いさりあつていふあつていふあつていふあつていふあ

らんをあらぶとねく。銀りのたまはてらるる
と物としし。一ひい美よ。咲依るの
番原をあらぶと一ひどりいさくんお
よすらうれいそく。天徳寺合。たが
はは茶権札。標方。下札。は。辯地。あ
ん。東。あ。た。後。い。は。標。の。あ。入。て。す
りの。ま。ま。く。化。ま。り。け。そ。よ。す。也。又。下
け。え。ま。ま。く。を。あ。め。は。茶。れ。の。辯。
打。た。札。よ。す。ら。地。あ。そ。れ。の。浦。若
ほ。の。く。の。辯。い。茶。の。札。は。蔵。手。此。辯。
一。た。を。と。び。ひ。つ。ま。こ。う。ま。今。金。負。物。
そ。ま。ま。く。天。徳。の。寺。合。よ。い。今。金。取。あ。の
枝。と。別。後。よ。す。ら。ま。ま。の。茶。に。く。
茶。の。枝。と。ね。と。わ。ら。う。也。
一。ひ。の。こ。が。も。ん。い。次。生。蛭。兒。錐。已。三。
歳。而。脚。不。立。本。記。一。日。の。り。の。ま。ま。く。に

つん一々陽成院の由母ニテ余後
業平すおららづとまの。信。物。地。
い。ん。ら。さ。れ。も。は。一。は。信。ら。文。を。か。た。
一。ひ。の。こ。が。も。ん。い。今。金。取。あ。の
よ。ま。の。心。枝。を。子。ま。ま。の。十。日。分。り
の。信。を。さ。し。し。ら。流。ら。る。信。は。ま。ま。の
忠。信。ま。ま。の。れ。が。ま。ま。の。物。を。ど
り。あ。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。ま。の。ま。ま。の
ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の
ひ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の
ひ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の
け。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の
け。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の
一。ひ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の
一。ひ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の
一。ひ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の
一。ひ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の
一。ひ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の

いとひりあわそやうそてといひを
出の名よりうらととをてられいそ
まらぬいられん水奥いかりをい
何れ奥よりまじとららりか
ぬん八丈づりけららぬるもねり
いぐんのものに時をのむるも何れも
はまらぬいぬるもいしなり舞星も
よむそり 一人此個はまきえ
香のまきり及濃香のよしをまき
るそて後濃香を一人此水衣裏皮
白も方士とてそて其業を合せり
りて金幣りは焚くそて香の物に
まの人の皮尺た一人いけり 神の
出おのりぬる 一人はりゆり聖人
あいのまはゆりぬるもはまきり
一人の車 一人此車糸毛し

一人のうげ損損車一人のうげたふらよ
者ハ袋よへ人も一人のうけし人も
いそそも損益夜一人のうけし人も
たれとてそて一人のうけりも
一人のうけし人も一人のうけりも
そらねたの礼を一人はらりては
ゆるれすをぬるも一人のうけりも
あよのあし 一人のうけりも
屠布羊歩は衣又唐土羊物を食
時よのどとて屠布へぬるも一人
教をぬるも一人のうけりも
そとをむるも一人のうけりも
解後書曰く見病入死必死
一人はあれとあまれ人もあれ界
よもあれとあまれ一人のみい人も
楊をぬる唐帝思もまも人土漢主

情順

一人ひくせらる

人形ヒナガタを寄ヨシり情ニ不レ遇ヘ頭ニ交シ互ニ奪ス

一人ひと人形ハ水ニはらばく

一人はゆのかくは ぬとヒナキ暑シヨと

るをヒ用ヒはなれ

ばわめをヒしてまらるといふ

一人はあひく女メをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

一人はあひく人ヒをヒ殺シらむ

蘇丹辨在奥列 女ねうまゝ一
旁の女れねよまじりやうとありあり
てうまゝ一とまき其国のわらわらの
あひ一とやがたのほろくまのしん
と恨ぐまあつたきあふうまゝ
とまふねりまあまらびりよ
あまゝ一
のうだり 徳義天皇の御代は延暦六年
は男女の衣服は唐のはと用となり
る心やまゝの留一りえあけ 朝本は
寺あつた
一りうくつ 落葉をとりうづつとる葉
を柱の枝よりけりうづつとる 落葉はら
ぐくの落葉を落流脈し くれじりま
まゝくづ一りや二や三のま枝は
一自連くはらうま 花目連始て
通をえくまのれまゝまゝのりなま

敷道下り心もまゝわらぬの念鬼なま
藤くらを救なと一幸 孟蘭盆夜
けららのの ねはま けららあま
一のあまを ねら一りう人 本人
体あま一人まゝまゝのあま
一物一とまゝまゝのあま
物まゝまゝまゝのあま
まゝまゝまゝのあま
人まゝまゝまゝのあま
まゝまゝまゝのあま
まゝまゝまゝのあま

宣命よひまゝ 補任のまゝ
まゝまゝまゝのあま
まゝまゝまゝのあま
まゝまゝまゝのあま

1. 江戸の町並み
2. 江戸の町並み
3. 江戸の町並み
4. 江戸の町並み
5. 江戸の町並み
6. 江戸の町並み
7. 江戸の町並み
8. 江戸の町並み
9. 江戸の町並み
10. 江戸の町並み

1. 江戸の町並み
2. 江戸の町並み
3. 江戸の町並み
4. 江戸の町並み
5. 江戸の町並み
6. 江戸の町並み
7. 江戸の町並み
8. 江戸の町並み
9. 江戸の町並み
10. 江戸の町並み



